

第 61 回ドイツ語学文学振興会賞審査結果

第 61 回ドイツ語学文学振興会賞の審査結果をお知らせいたします。

振興会賞

田邊 恵子

「カワウソのもとがわたしの家だった」—— ベンヤミン『1900年ごろのベルリンの幼年時代』における居住のモチーフ

振興会奨励賞

益 敏郎

ヘルダーリンの詩作における多面性の構築について —— 『七つの格言』と『パンと葡萄酒』

野添 聡

Otfrid von Weissenburg „Evangelienbuch “ における古高ドイツ語動詞接頭辞 gi- の研究

選考にあたっては次の方々に審査をお願いしました。

審査者会議議長：高橋輝暁

審査者：大宮勘一郎，胡屋武志，嶋崎啓，竹峰義和

授賞式は、2021年6月5日(土)、12時15分から日本独文学会春季研究発表会(zoom)において行われます。多くの方々が御出席くださり、新進研究者の受賞を祝していただけると存じます。

なお、本賞の趣旨は日本国内における若手のドイツ語学文学研究者による優れた業績の発掘にあります。論文応募については自薦・他薦は問うておりませんので、広くみなさまからの御応募をお待ちしております。また、授賞にふさわしい研究が埋もれてしまわぬよう、諸先生方からの積極的な御推挙もお願い申し上げます。第62回の応募締切日は2022年1月20日です。応募は随時受け付けておりますので、奮って御応募・御推薦ください。